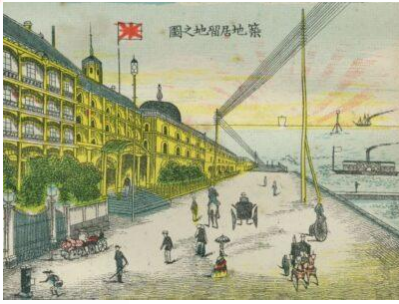


ワンポイントガイド

●築地明石町(スタート地点)



- ・江戸時代は忠臣蔵で有名な赤穂藩浅野家の江戸屋敷などがあった武家地であった。
- ・1868年(明治元年)に長崎・横浜と同じように「外国人居留地」が設けられた。
- ・教会・学校・外国公使館などが集まり異国情緒が漂う文教地域であった。(立教学院などのミッションスクールの発祥地やアメリカ合衆国公使館が設置された。)

●佃島



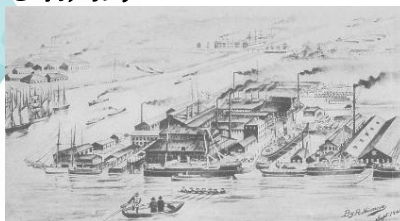
- ・1590年(天正18年)に摂津国佃村の漁師たち33名が、徳川家康の命を受け、江戸へと移り住んで作った街。
- ・「本能寺の変」の時に徳川家康の岡崎城への帰還を助けたのが、佃村の漁師だった。
- ・佃煮の発祥地。「天安」の創業は1837年(天保8年)。
- ・関東大震災(1923年:大正12年)や東京大空襲(1945年:昭和20年)の被害が無かった為、今も古い家屋や路地が残っている。

●住吉神社



- ・江戸時代に創建され、住吉三神、神功皇后、徳川家康の御神霊が祀られている。
- ・海運業、各問屋組合をはじめ多くの人々から海上安全、渡航安全の守護神として信仰を集めた。
- ・その後、月島、勝鬨、豊海、晴海と埋め立てが行われ、この地域の氏神として信仰されている。
- ・入口の水盤舎の欄干の彫刻が有名。

●石川島



「国立国会図書館デジタルコレクションより」

- ・江戸時代は、軽犯罪者や浮浪者の更生施設である人足寄場が置かれていた。
 - (1)火付盗賊改の長谷川平蔵が設立を提案。
 - (2)山本周五郎の「さぶ」の舞台。
- ・その後、欧米列強への対抗の為、幕府が水戸藩に洋式造船所の設立を指示。
- ・やがて、海軍から後のIHIが譲り受け1962年(昭和37年)には国内最大の造船所となった。

●月島



- ・明治に築かれた埋立地の第一号。
- ・当時は、一帯が工業地帯として発展し、大正の初めまでは工場や倉庫が建設され、労働者の街となり路地が生まれた。
- ・昭和に入り軍需産業で栄え、石川島造船所の社宅を中心に住宅街が形成された。
- ・造船不況により、造船所が閉鎖され、現在では路地の家屋が再開発されている。

●もんじゃストリート



- ・月島西仲通りを中心に80店舗ほどのもんじゃの店が連なる。
- ・「もんじゃ」の名前の由来は江戸時代末期から明治にかけて、子供たちが出汁で溶いた生地で鉄板に文字を書いて覚えながら食べていたのが始まりだといわれており、文字(もんじ)焼きと呼ばれたのがルーツ。
- ・月島の路地にある駄菓子屋の前で手ごろなおやつとして売られていたのが「もんじゃ焼き」の根源。

●豊洲



「写真提供 東京都港湾振興協会」

- ・大正後期から昭和前期にかけて埋め立てられた。
- ・1939年(昭和14年)に石川島造船所の工場が設置。
- ・戦時中は、軍の施設として利用された。
- ・護衛艦、フェリーなど多数の船が建造された。
- ・工場は、2002年(平成14年)閉鎖され、「ららぽーと豊洲」、タワーマンション、公共施設の建設など跡地の再開発が進んでいる。

●豊洲ふ頭



「写真提供 東京都港湾振興協会」

- ・1948年(昭和23年)に埋め立て工事が開始され、豊洲石炭埠頭が造成された。
- ・その後、石炭を使用した新東京火力発電所(当時は東京の電力の60%を供給)と石炭からガスを製造する東京ガス豊洲工場が操業を開始し、鉄鋼埠頭も完成した。
- ・このエリアは、エネルギー基地として戦後の復興期、高度経済成長期の東京の経済を支えた。
- ・新東京火力発電所は2000年(平成12年)に、東京ガス豊洲工場は1988年(昭和63年)に廃止となり、跡地の再開発が進んだ。(跡地には豊洲市場が誕生)

●レインボーブリッジ



- ・1993年(平成5年)に開通
- ・長さ約800mで芝浦と臨海副都心を結ぶ首都最大級の橋。
- ・上層は首都高速、下層は一般道、遊歩道、ゆりかもめが走る二重構造。

●台場



- ・ペリーの来航により危機感を抱いた江戸幕府は、東京湾に砲台を築造した。(砲台を置く台の事を台場と呼んだ。)
- ・5基が完成し、現存する第三台場と、第六台場が国指定の史跡に指定された。
- ・第三台場は、台場公園となり、陣屋跡や火薬庫、かまど跡が残されている。